卒業生に贈る言葉

3学年主任
岩崎　睦夫

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。「卒業」とは終了と同時に出発という意味をもっています。高校生活は終わりますが、人生の勉強はむしろこれからです。これからの人生は常に順風満帆というわけにはいきません。曇りのときもあれば嵐のときもあります。天候が悪いからといってその環境を恨み嘆いても何の解決にもなりません。それより必ず空は晴れると自らに言い聞かせて試練に勇気を持って立ち向かってください。失敗しないことが誇りではなく、失敗しても立ちあがって挑んでいくことが誇りなのです。自分の人生は自分で切り拓くのだという気概を持って、どんな試練に出会っても挫けずに挑戦していくことが大切だと思います。最後に、ある父親から娘への応援メッセージを卒業の餞として送ります。

わたしたちひとりひとりに、イノチという自分だけで育成可能の、何の汚れもない素材が与えられている。お前たちの知恵と勇気の限りを尽くしてゆっくりと育成してみるがいい。傷つき敗れるたびにイノチの素材は、底光りを増すのである。ためらうな、おそれるな、悲しみを享楽できるほどに、イノチを鍛治して、自分の人生に立ち向かっていくがよい。お前たちの前途がどうぞ多難でありますように。多難であるほど実りは大きい。

少しゆとりをもっていこう

定時制4年担任
田中　昇

3、4年間、本当によく頑張ったね。

日々、仕事に学業に家庭のことに、疲れがたまっていることでしょう。とても繊細な心をもっている君たちは、辛いとか、苦しいとか、どうでもいいという気持ちを常にもっていて、ときには虚勢を張る。学校に行きたくない、辞めたいと何度も思ったことでしょう。そんな君たちの心中をどれくらい察してやれただろうか。

そんなにがんばりすぎなくてもいいんじゃない。肩の力を少し緩めてみよう。心にゆとりをもって、半歩ずつ歩いて行くといいんだよ。そうすると見えないものが見えてくるよ。辛いことでも踏んばれるよ。ゆっくりじっくり少しずつ大きくなってください。

君たちとはこれからもずっと繋がっています。学校にも遊びにこんばね。もし結婚し子どもが産まれたときは見せにこんばね。

本当に本当にありがとう。

育友会 監査委員
坂本　眞吾

私自身天高との付き合いは、2人の子供の進学で5年間でした。なぜか牛深地区の地区委員を経て本部役員を2年間受け持ちました。

その間学校行事、子供の部活等で多くの友達もでき、後援会への参加で色々な勉強になり、楽しい思い出が出来たと思います。

また子供との関係は寮生ということで、送迎は大変だったけれど車の中での会話は意外と楽しいものでした。

学校行事の中で不安に感じたことは、育友会総会などの保護者の参加が減少傾向になっていることで、出来る限りの参加をお願いします。

最後に、今後の天高の発展を期待します。

卒業生の言葉

3年生代表(前生徒会長)
松本　大器

私の高校生活を振り返ってみて、本当に周囲の人に恵まれ、助けていただいた三年間でした。生徒会長を務めていた頃は、生徒会役員のみんなや、先生方に一から教えていただき、協力しあい行事を成功させることができました。

また、野球部主将も兼任していましたので、野球部にも生徒会役員にも迷惑をかけたと思います。私が部活にいけない時には副キャプテンの二人がチームをまとめてくれました。部員のみんなも頼りない私についてきてくれて、とても支えてもらいました。

そして、三年間を振り返り一番助けてもらったのは、三年生のみんなです。とても明るいみんなの体育大会での真剣な眼と頼りになる姿を見たときは、この学年で良かったと思いました。

最後に、私の将来の夢は救急救命士です。絶対に救急救命士になって今まで助けてくださった方を助けることで恩返しができるように頑張ります。三年間ありがとうございました。

定時制4年
石井　詩織

期待と不安が入り交じった中、始まった定時制生活も気付けば卒業。最初の頃は夜間の学校と日中の仕事の両立で、心も身体も慣れないことばかり。楽しむ余裕すらなかった。それでも4年間通うことができたのは定時制の皆がいたから。疲れた顔をしていると「だいじょぶ」と優しい声をかけてくれる先輩方。たった一言で頑張れる。

ここの良いところは、人数が少ないけどその分一人一人との会話が多く、関わりが深く、家族のようにつき合えること。学校生活の中で皆と共に感じ、多くのことを学び成長させてくれた。私にとって、天高定時制はこれからもかけがえのない存在であり、誇りに思う。